

ICTと現代文の授業

高校1年生は、本校でChrome bookを導入した初年度の学年です。昨年度は、授業では英語や数学を中心に活用していましたが、今年度は国語でも活用しています。

現代文では、授業に入る前の予習として要約を行っています。その際に、学校から生徒へアドレスを提供しているG-mailを活用し、提出を行います。

授業中は、そのクラスで提出されたものを題材に、要素が入っているか、また段落相互の関係が捉えられているかなどを電子黒板に映し出して、生徒に考えさせています。教員が一方的に教える形式にならず、考える深めるツールとして機能しています。

電子黒板は、映し出したものの上からホワイトボードマーカーで書き込むこともできます。今回は、二項対立であったものが結論では同じものに収束していく文章でした。授業前は、その過程が押さえられていない生徒が多かったのですが、ホワイトボードマーカーで対比されているものに矢印などを書き加えていくことで結論に導かれることに気づくことができるようになりました。

従来は授業の最初に初発の感想や要約を行い、生徒の理解の程度を図ることが多かったのですが、ICTによって授業前に生徒たちは文章の読み込みを行い、事前に何がわからないのかという生徒それぞれの課題を把握した上で、授業に臨むことができるようになりました。

国語とICTは縁遠い関係のように一見感じますが、洗足学園では徐々に授業の中に浸透しています。

